資料４

駒込中学校の建替えに関する提言書

（案）



令和８年９月時点

駒込中学校の建替え等を考える会

目次

はじめに 2

1. 駒込中学校の現況 3

（1） 位置と周辺図 3

（2） 用途地域 4

（3） 学校施設の現況 5

2. 建替えに関する条件等の整理 8

（1） 建替えスケジュール 8

（2） 生徒数と学級数 8

（3） 学校の教育目標と機能 9

3. コンセプト案 －私たちの思い－ 10

4. 基本方針案 －こんな学校にしたい－ 11

5. 整備方針案 －こんな風につくりたい－ 14

6. 配置計画の検討 －こんな配置にしたい－ 23

（1） 配置案の検討経過 23

（2） 配置修正案の比較 24

（3） 配置計画において大切にしたいこと 25

はじめに

私たち「駒込中学校の建替え等を考える会（以下「考える会」という。）」は、学校関係者、地域住民、PTA、同窓会、学校運営協議会など、多様な立場の委員によって構成される組織です。令和7年4月に設立して以来、先進事例の視察や有識者による講演、グループワークによる意見交換に加え、地域住民・保護者・教職員・児童生徒等を対象としたアンケート調査や大学生へのグループインタビューを実施し、幅広い世代の意見を伺いながら議論を重ねてきました。

その結果、『子どもたちの学びと成長を第一に考えること』を基本とし、「安全・安心な学校環境の確保」、「地域との共生」、「駒込中学校の歴史や桜など地域資源の継承」など、将来に向けて大切にすべき考え方が共有されました。

本提言書は、これら一年以上にわたる議論を踏まえ、生まれ変わる駒込中学校に、こうあってほしいという学校像と、その実現に向けて大切にしてもらいたい考え方を取りまとめたものです。

今後の整備計画や設計において尊重していただきたい地域の思いを込めたものとして、本書のとおり提言します。

駒込中学校の建替え等を考える会　会長　小川 文幸



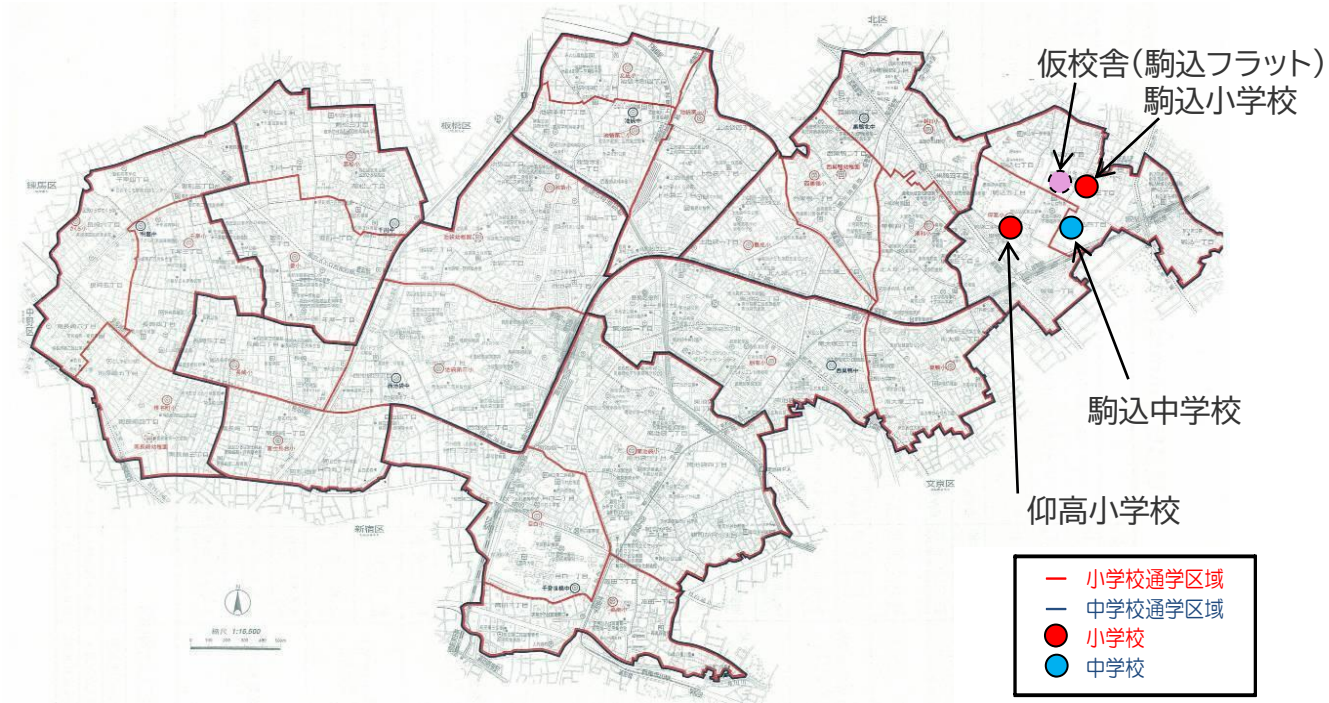
第５回考える会の様子

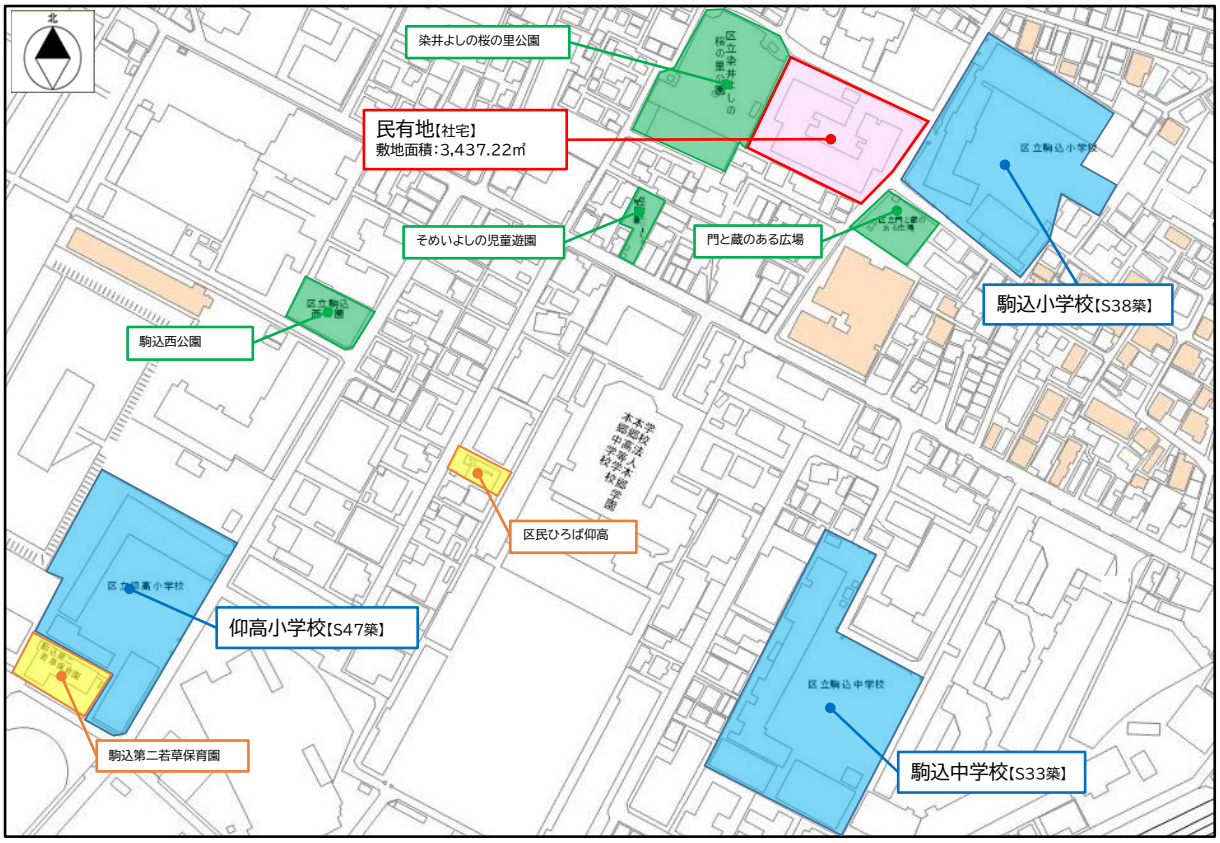


第６回考える会の様子

1. 駒込中学校の現況

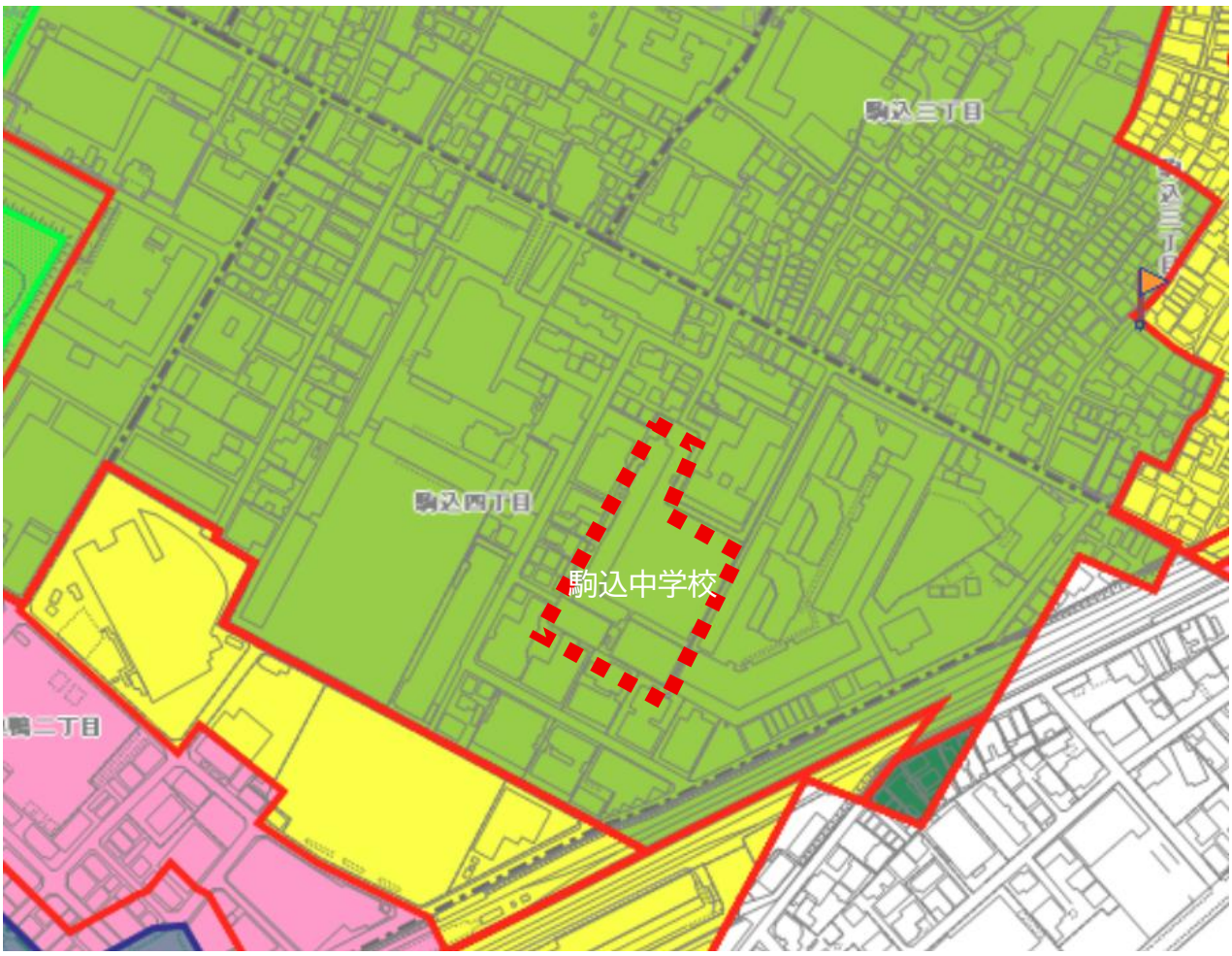
（1）位置と周辺図





新たな学校改築方針（令和 6 年度）から

（2）用途地域



用途地域		区境		町丁目境
	第一種低層住居専用地域		第一種中高層住居専用地域		第二種中高層住居専用地域
	第一種住居地域		第二種住居地域		近隣商業地域

用途地域	第一種中高層住居専用地域
容積率	300%
建ぺい率	60%
防火及び準防火地域	準防火地域
新たな防火規制	—
高度地区	第3種高度地区
日影規制時間	4-2.5(測定面:4m)

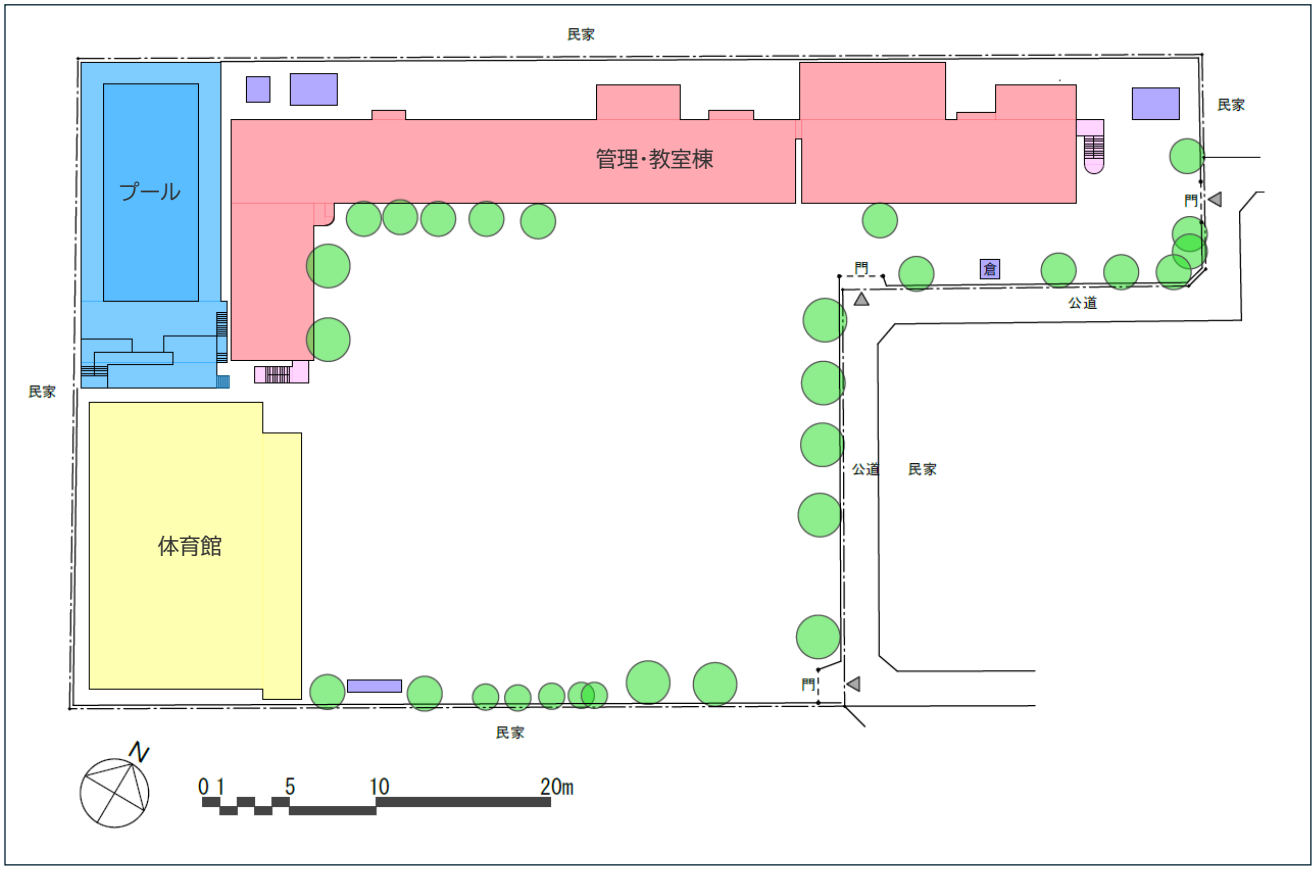
（3）学校施設の現況

	1年	2年	3年	全体
生徒数	76	52	50	178
学級数	3	2	2	7

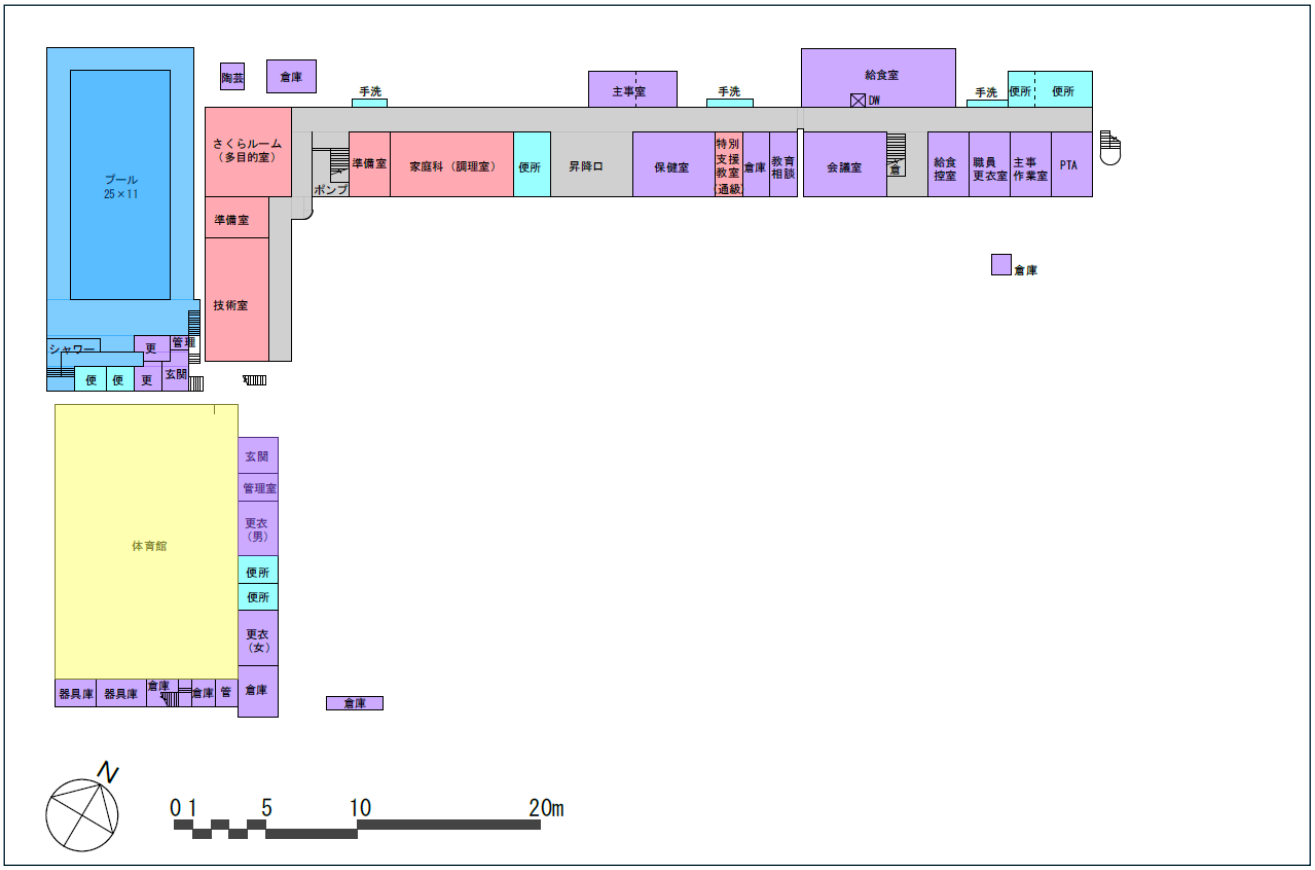
令和８年度７月時点

- 校地面積：7,741.62 ㎡（校庭：3,017 ㎡）
- 建ぺい率：60%
- 延床面積：5,192.35 ㎡
- 容積率：300%
- 構造：校舎　鉄筋コンクリート造4階建て、体育館　鉄骨造2階建て
- 用途地域：第一種中高層住居専用地域
- 防火地域：準防火地域
- 高度地区：第3種高度地区
- 日影規制：4時間－2．5時間（測定面4m）
- 接道状況：北4．00m
- 建築年度：校舎　昭和33年度（1958年）、体育館　昭和36年度（1961年）
- 耐震補強：平成 15 年に実施済

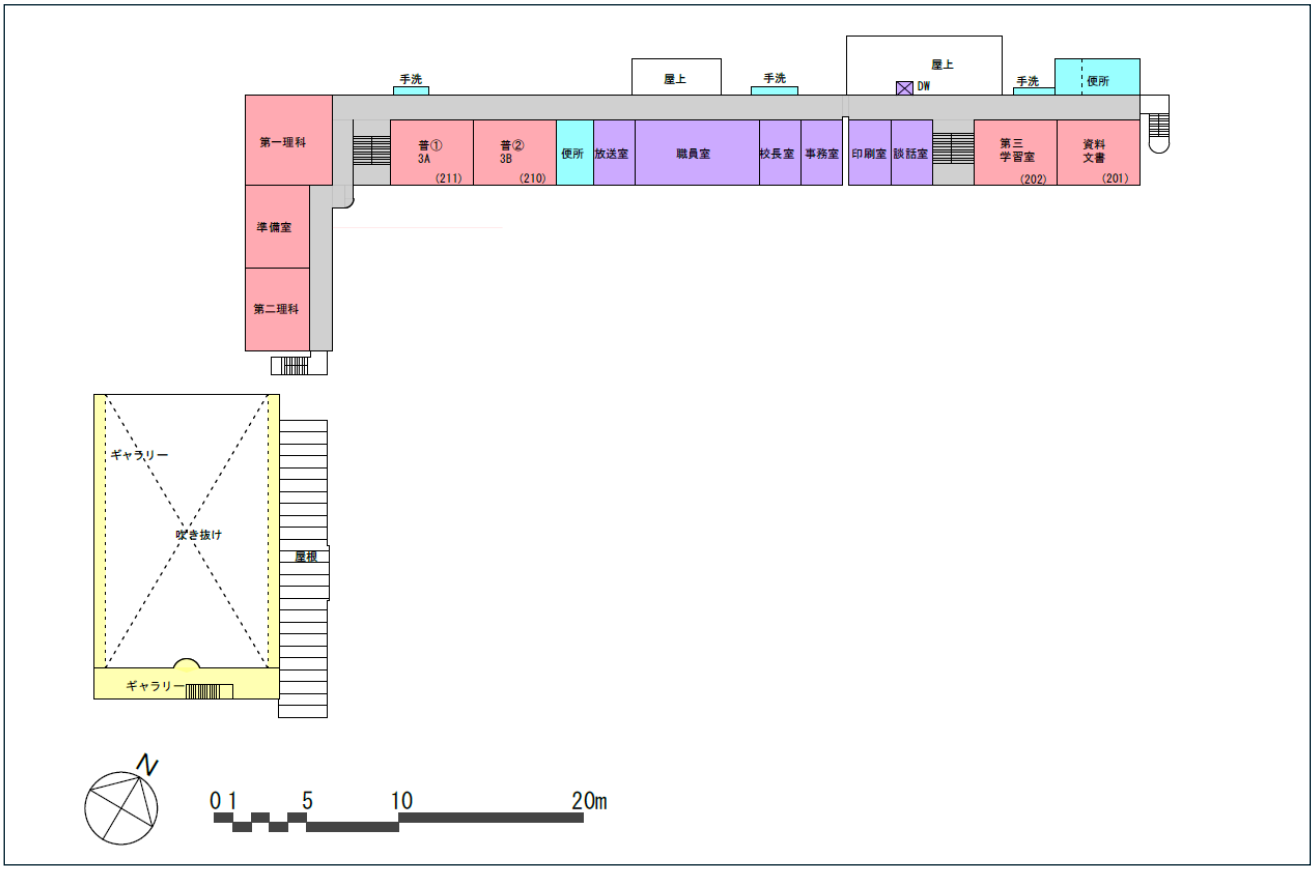
≪配置図≫


民家
プール
管理・教室棟
民家
門
倉
門
公道
民家
体育館
公道
民家
門
民家
N
0 1 5 10 20m

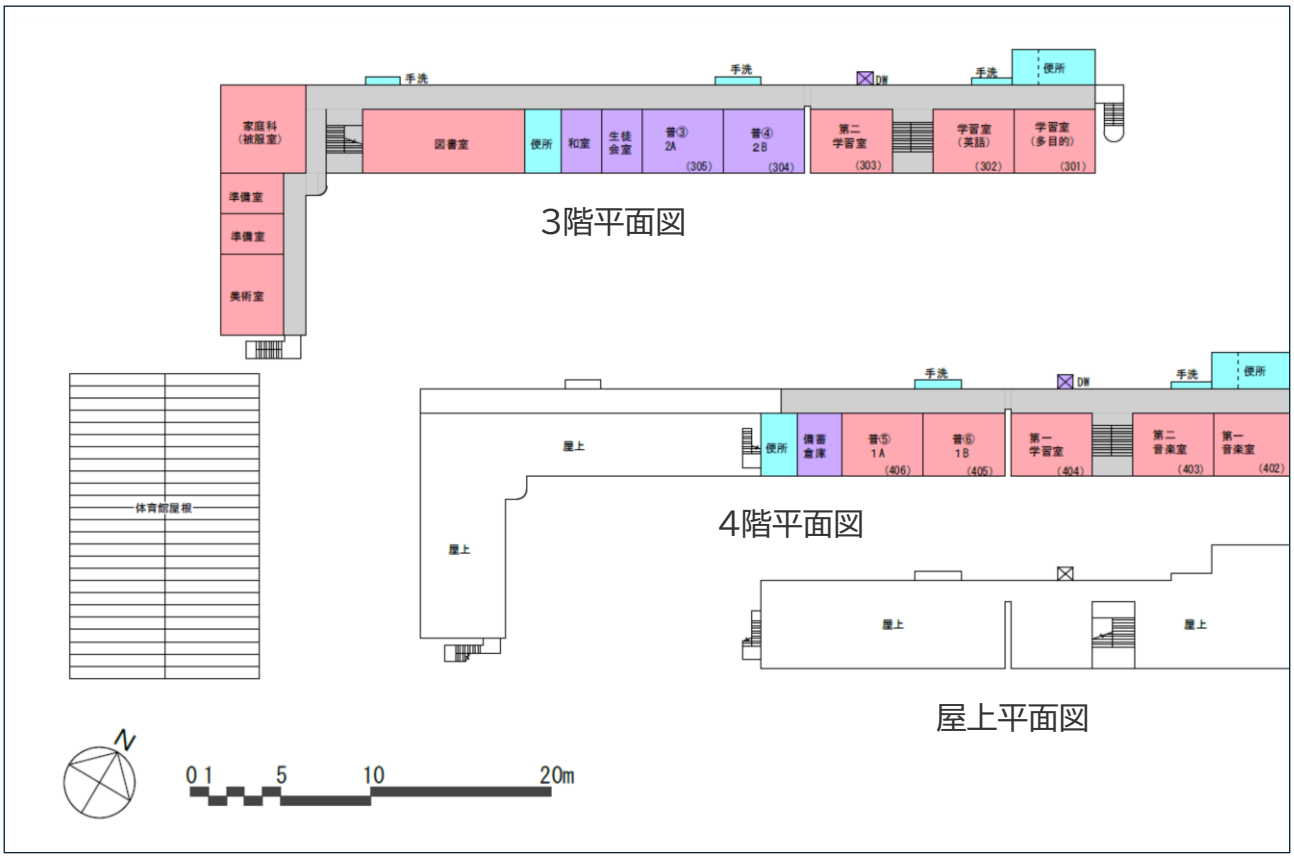
≪1階≫


プール
25×11
陶芸
倉庫
手洗
主事室
手洗
給食室
DW
手洗
便所
便所
さくらルーム
（多目的室）
準備室
家庭科（調理室）
便所
昇降口
保健室
特別支援教室
通級
倉庫
教育相談
会議室
倉庫
給食控室
職員更衣室
主事作業室
PTA
ポンプ
準備室
技術室
倉庫
シャワー
更
管理
便
便
更
玄関
体育館
玄関
管理室
更衣（男）
便所
便所
更衣（女）
器具庫
器具庫
倉庫
倉庫
管
倉庫
倉庫
N
0 1 5 10 20m

≪2階≫


手洗
屋上
手洗
屋上
DW
手洗
便所
第一理科
普① 3A (211)
普② 3B (210)
便所
放送室
職員室
校長室
事務室
印刷室
談話室
第三 学習室 (202)
資料 文書 (201)
準備室
第二理科
ギャラリー
吹き抜け
屋根
ギャラリー
N
0 1 5 10 20m

≪3階･4階･屋上≫

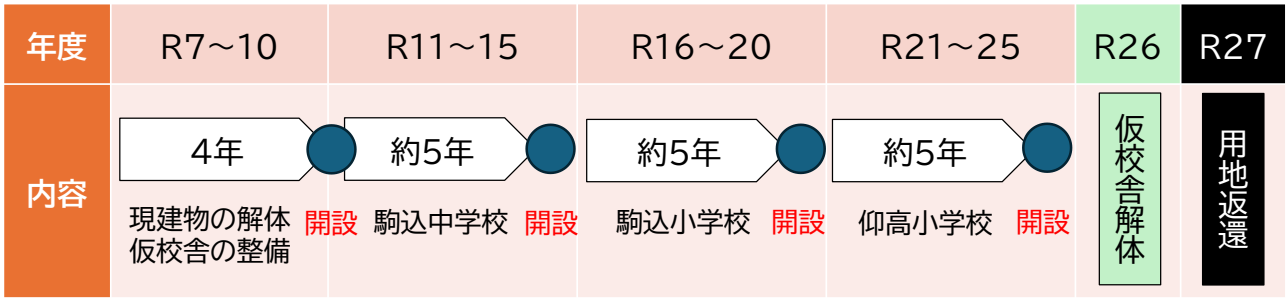

手洗
手洗
DW
手洗
便所
家庭科 (被服室)
図書室
便所
和室
生徒 会室
普③ 2A (305)
普④ 2B (304)
第二 学習室 (303)
学習室 (英語) (302)
学習室 (多目的) (301)
準備室
準備室
美術室
3階平面図
体育館屋根
手洗
DW
手洗
便所
屋上
便所
備蓄 倉庫
普⑤ 1A (406)
普⑥ 1B (405)
第一 学習室 (404)
第二 音楽室 (403)
第一 音楽室 (402)
屋上
4階平面図
屋上
屋上
屋上
屋上平面図
N
0 1 5 10 20m

2. 建替えに関する条件等の整理

（1）建替えスケジュール

令和6年度に新たな学校改築方針が示され、駒込地域において民有地を活用した学校改築を行うこととなった。これにより、駒込小学校隣地（旧駒込フラット）を仮校舎用地として賃借し、駒込中学校、駒込小学校、仰高小学校の改築を順次進める方針が定められている。このうち駒込中学校については、3校の中で最初に改築に着手することとされ、令和 11 年度（2029 年度）からの工事開始が予定されている。

仮校舎（令和 11 年度）→駒込中学校（令和 15 年度）→駒込小学校（令和 20 年度）→仰高小学校（令和 25 年度）



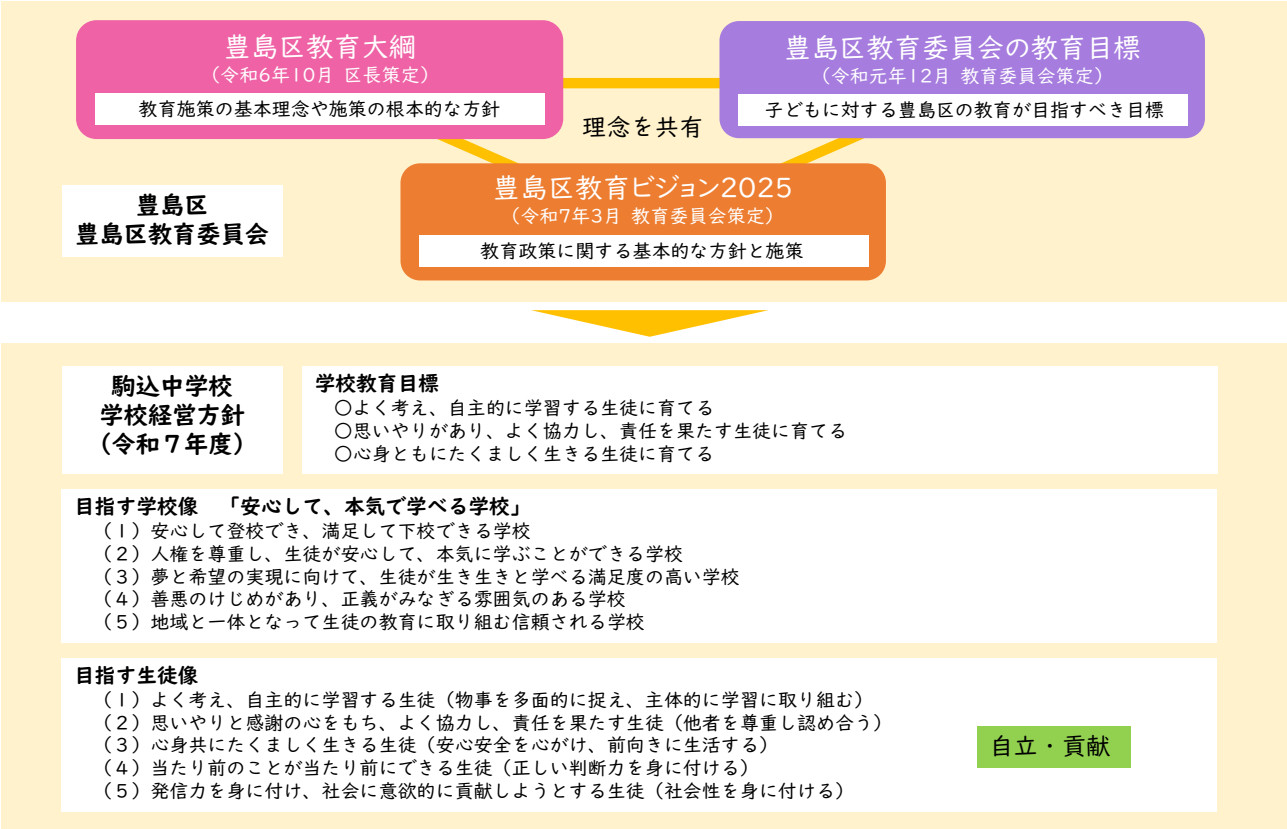
（2）生徒数と学級数

	実数						推計					
	令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		令和 10 年度		令和 11 年度	
	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数
1年生	44	2	52	2	76	3	70	2	79	3	77	3
2年生	61	2	47	2	52	2	72	3	68	2	78	3
3年生	49	2	60	2	50	2	50	2	70	2	65	2
計	154	6	159	6	178	7	192	7	217	7	220	8

（教育人口推計（東京都教育庁）R8 年 7 月時点 速報値から）

（3）学校の教育目標

《豊島区の教育目標等を踏まえた駒込中学校の学校経営方針》



（第５回考える会資料から）

3. コンセプト案　－私たちの思い－

子どもたちが毎日安心して学び、健やかに成長し、地域に見守られながら未来へ羽ばたいていける学校であってほしい。

考える会では、これまでのグループワークやアンケート等を通じて、子どもたちの学びと成長を第一に考えること、安全・安心な学校環境を整えること、そして、駒込中学校が地域とともに育んできた歴史や、桜などの地域資源、地域の人々とのつながりなどを大切にし、未来へ受け継いでいくことを、学校づくりにおいて大切にしたい考え方として共有してきました。

これらの考え方について、駒込地域を発祥の地とするソメイヨシノになぞらえ、子どもたちの「学び」と「成長」を最も大切にするべきものとして『幹』と表現し、地域に積み重ねられてきた歴史や資源、つながりを『ソメイの歴史』と表現しています。

また、ここでいう「子どもたち」は、現在の駒込中学校の生徒だけでなく、将来この学校で学ぶ園児や児童、地域の中で学校に関わる子どもたちも含んでいます。

こうした思いを踏まえ、今後の学校づくりの方向性を示すコンセプトを、次のとおりとします。

子どもたちの「学び」と「成長」を幹に、
「ソメイの歴史」とともに未来へつなげる学校づくり

4. 基本方針案　－こんな学校にしたい－

方針１

子どもたちの学びと成長を第一に考える学校

子どもたち一人ひとりの学びや成長を最優先に考え、安心して学び、挑戦し、多様な人との関わりの中で自ら考え行動できる力を育む学校にしたい。

① **学び**

多様な学習活動や交流活動に対応できる、質の高い学習環境を整備する。

② **居場所**

教室だけでなく、一人でも友だちとでも安心して過ごせる多様な居場所を確保する。

③ **多様性**

一人ひとりの個性や特性、多様な背景を尊重し、誰もが安心して学べる学校を目指す。

④ **自主性**

子どもたちが主体的に学び、考え、行動できる環境を整える。

方針２

安全・安心で誰もが過ごしやすい学校

子どもたちが毎日安心して学び、生活できる学校を目指し、安全・安心な教育環境を確保するとともに、学校を利用する誰もが快適に過ごせる学校にしたい。

① **防災**

災害時にも子どもたちの安全を確保するとともに、地域の避難所（救援センターを含む）としての機能を備えた学校を目指す。

② **防犯**

子どもたちが安心して学校生活を送ることができるよう、防犯性と見守りに配慮した学校環境を整備する。

③ **ユニバーサルデザイン**

子どもたちをはじめ、学校を利用する誰もが安心して利用できる学校施設を目指す。

④ **健康・快適性**

明るさや通風、温熱環境、衛生環境などに配慮し、子どもたちが心身ともに健康で快適に過ごせる学校環境を整える。

方針３

地域と共存し、地域とともに歩む学校

地域とともに歩み、学校と地域が互いに支え合う関係を築くとともに、周辺環境や近隣住民への配慮を大切にし、地域に親しまれ、愛される学校にしたい。

① **地域利用**
学校施設を地域に開かれた空間として活用し、多世代が利用しやすい環境を整える。

② **地域交流**
学校と地域との交流を深め、地域の人々との関わりを通して子どもたちの学びや成長につなげる。

③ **近隣への配慮**
学校運営や施設整備にあたっては、周辺住民の生活環境との調和に配慮し、住宅地に立地する学校として共存できる環境づくりを進める。

④ **学校への愛着と誇り**
地域に親しまれ、子どもたちや卒業生、地域住民が愛着と誇りを持てる学校づくりを進める。

方針４

駒込中学校らしさを未来へ受け継ぐ学校

駒込中学校がこれまで育んできた歴史や地域とのつながりを大切にし、桜や緑など地域の資源を未来へ受け継ぎながら、子どもたちが学校や地域に愛着と誇りを持てる学校にしたい。

① **桜（ソメイヨシノ）**
地域や学校のシンボルである桜（ソメイヨシノ）を大切にし、学校の歴史や思い出を未来へつなぐ。

② **歴史**
駒込中学校の歴史や伝統を継承し、地域とともに歩んできた学校の歩みを未来へ受け継ぐ。

③ **緑**
緑豊かな環境を保全・創出し、自然に親しみながら学べる学校づくりを進める。

④ **思い出**
子どもたちや卒業生、地域の人々が愛着を持ち、思い出を積み重ねられる学校づくりを進める。

⑤ **地域資源**
学校だけで完結するのではなく、地域の文化や自然、人材などの資源を教育活動に生かし、地域とともに学ぶ学校を目指す。

方針５

将来の変化に対応できる持続可能な学校

教育内容や社会環境の変化に柔軟に対応するとともに、環境負荷の低減や長期的な視点に立った学校づくりを進め、将来にわたり安心して利用できる持続可能な学校にしたい。

① **ICT**

ICTを効果的に活用し、多様な学び方や新しい教育内容に対応できる学習環境を整備する。

② **多目的利用**

教育活動だけでなく、地域利用や災害時利用など、多様な用途に柔軟に対応できる施設・空間づくりを進める。

③ **教育の変化への対応**

教育内容や学び方の変化に対応し、子どもたちの主体的な学びを支える学校づくりを進める。

④ **環境**

省エネルギーや環境負荷の低減に配慮し、自然と共生する持続可能な学校づくりを進める。

5. 整備方針案　－こんな風につくりたい－

学校全体

- 子どもたちの学びと成長を第一に考え、教室、校庭、体育館等の配置関係や動線に配慮した、使いやすい施設配置とする。
- 多様な学び方や教育内容の変化、生徒数の増減などに対応できるよう、柔軟に利用できる施設・空間を整備する。
- ICTを活用した学習環境を整えるとともに、多目的に利用できるオープンスペースや、子どもたちが自由に過ごし交流できる居場所を確保する。
- 校内外に目が行き届き、死角の少ない学校施設にするとともに、段差の解消やエレベーターの設置など、誰もが利用しやすいユニバーサルデザインに配慮する。
- 災害時の避難所としての利用を踏まえ、安全な避難動線や緊急車両・物資搬入の動線など、防災機能に配慮した学校施設とする。
- 地域利用と学校利用の動線・管理区分に配慮するとともに、近隣住宅への視線、騒音、圧迫感などを軽減し、周辺環境と調和した学校施設とする。
- 駒込中学校の歴史や伝統、桜をはじめとする地域資源を大切にし、駒込中学校らしさを感じられる学校施設とする。
- 採光、遮熱、通風、空調等に配慮するとともに、省エネルギーや環境負荷の低減を図り、快適で持続可能な学校施設とする。

教室

《普通教室》

- 子どもたちが一日の多くを過ごす場所として、明るさや温熱環境に配慮し、落ち着いて学習できる快適な教室とする。
- 適切な採光を確保しつつ、夏季の暑さにも配慮し、遮光や照明、内装等を工夫した学習環境とする。
- 生徒数の増減や少人数授業などに対応できるよう、必要な教室数を確保するとともに、多目的に利用できる教室・空間を整備する。
- ICT機器を日常的に活用できるよう、モニターやプロジェクター、通信・電源設備等を使いやすく整備する。
- 学年や授業形態、特別教室への移動を考慮し、水平・上下方向ともに移動しやすい教室配置とする。
- 安心して学校生活を送ることができるよう、教室の施錠等、防犯面に配慮する。

（背景）

- ✓ 考える会では、「夏が長くなっているので、単純に日当たりがよければよいのではなく遮光も必要」という意見がありました。
- ✓ 生徒数増減への対応、多目的室、少人数授業のための「教室数＋α」という意見もありました。
- ✓ アンケート（教員）では、ICT 設備の常設、少人数授業時の移動負担、防犯上の施錠なども具体的に挙げられています。

《特別支援・多様な学び（さくらルーム）》

- 一人ひとりの状況や学び方に応じて、安心して学び、過ごすことのできる教室・空間を整備する。
- 少人数での学習や相談、必要に応じて体を動かす活動等にも対応できる、十分な広さを確保する。
- 現在の「さくらルーム」のように、普通教室とは異なる居場所を必要とする子どもたちが、安心して過ごし、人と関わることのできる場を確保する。

（背景）

- ✓ 現在のさくらルームについて、アンケート（生徒）では、「昼休みにのんびりできる」「日光が入り落ち着く」、また普通教室とは別の居場所が必要だという意見が出ています。
- ✓ 一方、教員からは、相談室や特別支援教室が狭く、少人数指導や体を動かすことのできる広さが必要という意見が出ています

《特別教室》

- 普通教室から利用しやすく、授業間の移動に負担の少ない配置とする。
- 各教科の学習内容や活動に対応できる広さ、設備、収納等を確保し、安全で使いやすい教室とする。
- 音楽室など音を伴う活動を行う教室は、学習環境と周辺住宅の双方に配慮した防音性を確保する。
- 現在の特別教室の良さや、駒込中学校が培ってきた歴史や特色を大切にし、新しい学校にも継承できるよう工夫する。

（背景）

- ✓ アンケート（生徒）では、技術室の木の温かみ、家庭科室の懐かしさ、音楽室での部活動の思い出、受け継がれてきた楽器棚などを残したいという声が出ています。

諸室・共用部

《図書室・自習室・交流スペース》

- 図書室や自習スペース、交流スペースを相互に利用しやすく配置し、学習と交流の中心となる空間を整備する。
- 一人で静かに読書や学習に集中できる場所と、友だちと話したり学年を越えて交流したりできる場所を確保する。
- 明るく入りやすく、本や情報に気軽に触れることができる図書・学習環境を整える。
- 授業だけでなく、休み時間や放課後などにも、子どもたちが自分に合った過ごし方を選べる空間とする。

（背景）

- ✓ アンケート（小学校５・６年生）では、図書室、自習スペース、談話・交流スペースへの要望が多く、「一人で静かに過ごしたい」「友だちと集まりたい」という両方のニーズが出ています。
- ✓ 現在の図書室についても、生徒から「静かで集中できる」「居やすい」「勉強室があるのがよい」と評価されています。
- ✓ 考える会では、図書館・ICT 情報センター・オープンスペースを校内の中心的な空間とし、自習や交流、自由に過ごせる場にしたいという意見が出ています。

《昇降口・廊下・ホール》

- 昇降口は、生徒が集中する時間帯にも安全でスムーズに出入りできる十分な広さを確保するとともに、雨天時にも安全に利用できる床の仕上げ等に配慮する。
- 校内の動線を分かりやすくし、目的の場所へ移動しやすい廊下・階段等を整備する。
- 廊下やホール等の共用部にも、生徒が立ち寄り、休憩したり友だちと話したりできる居場所を設ける。
- 採光や照明、仕上げ等に配慮し、明るく温かみがあり、学校生活の中で人との交流が自然に生まれる共用空間とする。

（背景）

- ✓ 現在の昇降口は「待ち合わせをする場所」として親しまれている一方、一斉下校時の混雑や狭さ、雨天時の滑りやすさなどが指摘されています。
- ✓ 校舎については「迷路のようで分かりにくい」「廊下が暗い」といった意見があり、共用部に生徒と教員が交流できるスペースを求める意見もあります。
- ✓ 生徒からは、各階に「集まれる場所」「話せる場所」がほしいという具体的な意見も出ています。

《トイレ》

- 現在の学校で評価されている清潔で明るいトイレ環境を、新しい学校にも継承する。
- 各階や体育館など、利用する場所から分かりやすくアクセスしやすい配置とする。
- 利用人数に応じた便器や洗面設備を確保するとともに、誰もが安心して利用できるトイレ環境を整備する。

（背景）

✓ 現在のトイレは、アンケート（生徒・教員）から「きれい」「清潔で使いやすい」と高く評価されており、現在の駒込中の良いところの一つです。

✓ 一方で、場所が階によってバラバラで、洗面台の数が少ない、体育館のトイレには改善要望があるなどの意見もあります。

《保健室》

- 体調不良やけがの際に安心して休むことのできる、落ち着いた環境を整える。
- 校庭や校舎内からアクセスしやすく、緊急時にも対応しやすい配置とする。
- 保健活動に必要な設備を確保し、日常の健康管理から緊急時まで対応しやすい保健室とする。

（背景）

✓ 現在の保健室は、生徒から「清潔感があり休まる」「1 階にあり、校庭からすぐ行けるところが便利」と評価されています。

《和室・生徒会室など》

- 和室など、これまで駒込中学校で大切にされてきた文化活動や地域との交流を継承できる空間を整備する。
- 用途を限定しすぎず、学校活動や地域との交流などにも柔軟に活用できる空間とする。
- 生徒会活動や部活動等、生徒の自主的な活動を支える場所を確保する。

（背景）

✓ 現在の和室について、「校内唯一の畳の部屋」「茶道・華道等の活動に使われている」「伝統文化を体験できることが特色」と評価されています。

《管理諸室》

- 職員室等の管理諸室は、教職員が働きやすく、教育活動を円滑に支えることのできる広さ・設備・収納を確保する。
- 校内の各所へ移動しやすく、生徒の様子や学校内外の安全を把握しやすい配置に配慮する。
- 教職員同士の連携や、生徒・保護者への対応がしやすい環境を整える。

（背景）

✓ アンケート（教員）からは、現在の職員室について、狭さや教材・プリント等の収納不足、照明・空調環境への改善要望が出ています

体育施設等

《体育館等》

- 体育授業や部活動等を十分に行うことができる広さと高さを確保し、複数の活動に柔軟に対応できる体育館とする。
- 武道をはじめとする多様な部活動に対応できるよう、専用又は複数の用途に利用できる活動空間を確保する。
- 授業、部活動、学校行事などにおいて体育館の空間を有効に利用できるようステージや器具庫、更衣室等を整備する。
- 災害時の避難所（救援センター）としての利用を踏まえ、外部からアクセスしやすく、物資搬入や避難者の受入れがしやすい配置・動線とする。
- 地域開放を想定し、学校利用との動線や管理区分、安全性に配慮する。
- ボルダリングのオリンピアンである卒業生の偉業を受け継ぐことのできる設備について、検討する。

（背景）

✓ アンケート（地域・保護者、教員、生徒）や考える会で、現在の体育館について「狭い」「複数の部活動に対応できる広さがほしい」といった意見がある一方、現在の昇降式ステージなど、限られた空間を有効に使う工夫を評価する意見もあります。

✓ 考える会では、バレーボールやバドミントン等の活動ができる広さの確保や、武道場など特定種目の活動場所、または複数種目で利用できる多機能な空間を求める意見が出ています。

✓ 体育館は地域の避難所（救援センター）となることから、1 階配置、物資搬入のしやすさ、避難時にも広さを有効に使える設えなどについても意見が出ています。

✓ ボルダリングの選手としてオリンピックに出た卒業生がおり、ボルダリングができるようにして後輩に伝承できると良いのではという意見が出ています。

《プール》

- 生徒が安全かつ快適に利用できるプールを学校敷地内に整備する。
- 近隣からの視線や騒音等に十分配慮するとともに、生徒のプライバシーを確保できる配置・設えとする。
- 夏季の高温化等を踏まえ、屋根の設置や屋内化など、安全で快適に利用できる環境を整える。
- 限られた敷地を有効に活用するため、校舎や体育館との立体的な配置や、利用しやすい動線に配慮する。
- 災害時の水利用など、防災面での活用に配慮する。
- 管理・運営の諸課題を考える上では、外部化の可能性を排除せずに検討する。

（背景）

✓ 考える会では、プールの配置やあり方について、近隣住宅からの視線や騒音、近年の暑さへの対応、防災面での活用など、さまざまな意見が出ています。

✓ 区から学校敷地内にプールを設置する方針が示され、考える会ではこれを前提に、校舎上部等への配置が検討されています。

✓ ただし、外部化の可能性を排除することなく検討を継続すべきとの意見も出ています。

地域開放施設

- 学校教育を第一に、体育館や校庭等を地域利用にも対応できる施設とする。
- 地域開放する施設は、学校利用部分と適切に区分し、出入口や動線、管理区分を明確にするなど、学校運営や子どもたちの安全に配慮したゾーニングとする。
- 地域利用者を含め、誰もが利用しやすいよう、ユニバーサルデザインや分かりやすい案内に配慮する。
- 学校と地域の双方が利用できる多目的な空間を設けるなど、限られた施設を有効に活用できるよう工夫する。
- 地域開放する施設については、騒音や照明、利用時間等が周辺の住環境に与える影響に配慮する。

（背景）

✓ アンケート（地域・保護者）では、現在の校庭や体育館等の地域利用が評価され、新しい学校でも地域への開放を望む意見が出ています。

✓ 考える会では、地域開放・地域利用にあたって、学校機能との棲み分けや、生徒と地域利用者とのバランスに配慮する必要があるとの意見が出ています。

✓ 配置計画でも、地域利用を想定した施設配置とすることが配慮事項として整理されています。

屋外

《校庭・多目的ひろば》

- 体育授業、休み時間、部活動等で十分に体を動かすことができる、できる限り広く使いやすい校庭を確保する。
- 陸上、球技等の活動に配慮し、安全で使いやすいトラックや校庭形状とする。
- 複数の部活動等が同時に行えるよう、限られた敷地を有効に活用する。
- 校庭の一部には、学校行事や日常の活動、地域利用等にも柔軟に対応できる多目的な空間を確保する。
- 災害時には避難や一時的な活動、物資搬入等にも活用できるよう、防災面にも配慮した屋外空間とする。

（背景）

✓ アンケート（地域・保護者、教員、生徒、小学校５・６年生）では、校庭を広くしてほしい、走ったりサッカーや野球、部活動を十分に行えるようにしてほしいという意見が多く出ています。

✓ 考える会でも、校庭の広さやトラックの形状、複数の部活動が活動できる環境を重視する意見が出ています。

✓ 配置案の検討では、専用のテニスコートに限定せず、学校行事や地域利用などにも対応できる多目的な空間として活用してはどうかという意見が出ています。

《桜・緑》

- 駒込中学校と地域のシンボルである桜を大切にし、既存樹木の保存や移植、新たな植樹などを通じて、桜のある学校の風景を未来へ受け継ぐ。
- 既存樹木を可能な範囲で生かしながら、新たな緑や花壇等を整備し、四季を感じられる学校環境をつくる。
- 自然観察や環境学習など、子どもたちの学びにも活用できる緑地を整備する。
- 緑化によって学校内の環境を良くするだけでなく、周辺の街並みや住環境にも調和するよう配慮する。
- やむを得ず伐採する樹木についても、木材の活用など、学校の歴史や記憶を受け継ぐ方法を検討する。

（背景）

- ✓ アンケート（地域・保護者、生徒、未就学児保護者）や考える会では、駒込中学校のシンボルである桜を大切にしたい、思い出や景観とともに未来へ受け継ぎたいという意見が繰り返し出ています。
- ✓ 一方、既存樹木をすべて残すことは難しいことも共有されており、既存の桜を可能な範囲で残すことに加え、新たなシンボルとなる樹木や緑をつくることも検討されています。
- ✓ 「学びにつながる自然・緑」「学校周辺の環境向上への貢献」も、配置案の評価項目として整理されています。

《正門・アプローチ・外周》

- 正門から校舎・昇降口まで、安全で分かりやすく、駒込中学校らしさを感じられるアプローチを整備する。
- 桜や緑、学校の歴史を感じられる設えなどにより、学校の「顔」となる象徴的な空間づくりを工夫する。
- 生徒の登下校動線と車両動線の安全性に配慮するとともに、災害時には緊急車両や物資搬入にも対応できる出入口・動線を確保する。
- 外周部は、防犯性や見通しを確保しながら、近隣住宅への視線や圧迫感、騒音等にも配慮する。

（背景）

- ✓ 配置案の検討では、正門から昇降口までを桜並木等の「シンボルロード」のようにし、学校の歴史を感じられるアプローチにしてはどうかという意見が出ています。
- ✓ 登下校時の安全、災害時の緊急車両や物資搬入、近隣住宅への視線や圧迫感等に配慮した出入口・外周計画を求める意見があります。

防災・災害時・避難所機能

- 災害時に地域の救援センターとして十分に機能できるよう、体育館、校庭、備蓄倉庫等を相互に利用しやすく配置する。
- 避難者が安全かつ円滑に避難できる経路を確保するとともに、救急車・消防車等の緊急車両や救援物資の搬入がしやすい出入口・動線を整備する。
- 避難所として利用する体育館などの施設は、外部からアクセスしやすく、段差の解消やトイレ等を含め、誰もが利用しやすい施設とする。
- 備蓄倉庫や防災設備は、災害時に速やかに使用でき、避難所運営と連携しやすい配置とする。

- 災害時にも必要な情報伝達が行えるよう、放送設備等の防災機能を確保する。
- 避難所生活が長期化した場合に、避難所としての機能と学校教育を可能な限り両立できる施設・空間構成とする。

（背景）

- ✓ アンケート（地域・保護者）では、現在の駒込中学校について、地域と連携した防災教育や備蓄倉庫などが評価されており、今後も継続・充実してほしいという意見が出ています。
- ✓ 考える会では、災害時の避難場所として校庭や体育館の広さを確保すること、体育館を 1 階に配置して物資を搬入しやすくすること、緊急車両が進入できる動線を確保することなどについて意見が出ています。
- ✓ また、避難所生活が長期化した場合にも、生徒の学習や学校教育を継続できるようにすることが重要との意見が出ています。
- ✓ 配置案の検討においても、避難アクセスを含めた避難場所・避難所としての利用が重要な評価項目として整理されています。

環境への配慮・環境学習

- 採光、遮光、通風、空調等を適切に組み合わせ、年間を通して快適に過ごせるとともに、エネルギー消費を抑えられる学校施設とする。
- 太陽光エネルギーや雨水利用など、自然エネルギー・資源の有効活用を検討し、環境負荷の低減に配慮する。
- 桜や樹木、花壇などの自然環境を、日常の学校生活だけでなく、理科や環境学習等にも活用できるよう工夫する。
- 省エネルギーや自然環境への取組を子どもたちが身近に感じ、環境について学ぶことができる学校施設とする。

（背景）

- ✓ 考える会では、夏の長期化や暑さを踏まえ、日当たりだけでなく遮光にも配慮するとともに、冷房・暖房にかかるエネルギーをバランスよく抑えることが大切との意見が出ています。
- ✓ 配置案の検討では、「省エネ対策が可能か」が評価項目の一つとして整理されています。
- ✓ アンケート（地域・保護者）では、雨水や太陽光エネルギーの活用、屋上緑化、ビオトープなど、環境に配慮した学校づくりを求める意見があります。
- ✓ 考える会では、四季を感じられる多様な植物を教育に生かすことや、「学びにつながる自然・緑」を確保することも重視されています。

6. 配置計画の検討　－こんな配置にしたい－

（1） 配置案の検討経過

考える会では、学校づくりにおいて重視したい事項や配置案を評価する視点を整理したうえで、複数の配置案について検討を行ってきました。第6回考える会では、A案（現状配置案）、B案（南西配置案）、C案（南東配置案）の3案をもとに、それぞれの特徴や課題、配慮すべき事項等について意見交換を行いました。

その後、東京都の条例等に基づく建築上の条件を改めて確認した結果、当初提示した配置案について見直しが必要となったことから、これらの条件に加え、第6回考える会で出された意見等を踏まえて配置案を再検討しました。第7回考える会では、修正したA案、B案、C案を改めて提示し、それぞれの特徴を比較しながら、配置にあたって大切にしたい事項について検討を行いました。

《建替えの条件（豊島区から提示）》

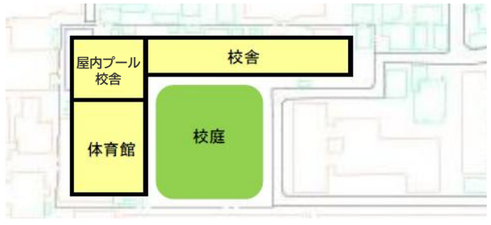
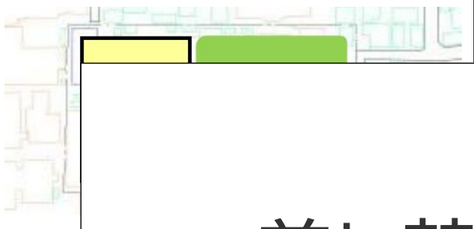
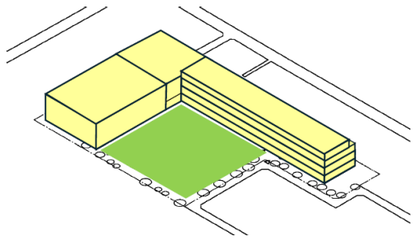
・現敷地内での建替えとする。
・工期やコストの関係上、地下階を設けることは想定しない。
・体育館は避難所となるため、１階に設置を想定。
・既存樹木は残置や移植について検討するが、工事の都合上、全ての樹木の保存は困難。

《配置にあたっての配慮事項》

・日常的に利用する教室や校庭、体育館といった空間の関係性に配慮するとともに、これらの機能が相互に円滑に利用できるよう、全体の配置バランスを検討する。
・安全性の確保や防災面への配慮として、避難動線等に留意するとともに、 地域利用を想定した施設配置とすることで、学校と地域の関係性にも配慮する。
・桜等の既存樹木の取扱いや周辺環境、近隣との調和にも配慮し、現状の環境を生かした配置となるよう検討する。

（2） 配置案の比較-

第7回考える会では、建替え条件や前提条件、第6回考える会で出された意見等を踏まえて修正したA案、B案、C案について、各案の特徴を比較しながら検討を行いました。

	現状	A 案（現状維持案）	B 案（南西配置案）	C 案（南東配置案）
校地面積（㎡）	7,741.62	7,741.62	7,741.62	7,741.62
延床面積（㎡）	5,192.35	7,900	7,880	7,840
校舎				
階数	4 階	4階	4階	4階
体育館				
位置	南側 1 階	南側 1 階	南西側 1 階	東側 1 階
広さ	25×34m	現状より広い	現状より広い	現状より広い
プール	南西側外部	南西側 2 階（校舎上部）	南側3階（校舎上部）	南側3階（校舎上部）
校庭				
グランド面積（㎡）	3,017	現状より狭い	現状と同規模	現状より広い
特徴	・南側の校庭と、校庭に面して教室を配置している ・教室への日当りがよく、各部屋から校庭を見ることができる ・動線が長い	・現況に最も近い案 ・北側に4階建の校舎を設置（一部3階建て） ・南側に体育館とプールを設置 ・動線が長い	・校舎を南側に配置する案 ・建物がコンパクトになり、動線が短い ・既存の桜を残すことができる ・道路から校舎の間に前庭を配置 ・体育館を南西側に配置 ・プールは校舎上部に配置 ・トラックと多目的広場を一体で利用可能	・校舎を南から東側に配置する案 ・体育館を東側に配置 ・体育館への外部からのアクセスがよい ・プールは校舎上部に配置 ・トラックと多目的広場を一体で利用可能
平面配置図				
立体イメージ図				

差し替え予定

（3） 配置計画において大切にしたいこと

これまでの配置案の比較・検討では、第5回考える会で整理した「学習環境」「学校生活」「自然環境」「安全・安心」「地域との連携」「ユニバーサルデザイン」「コスト・工期」の視点を踏まえ、各案の特徴や課題、配慮すべき事項について検討を行いました。

これらの検討を通じて、考える会では、配置の違いにかかわらず、今後の配置計画において大切にしたい事項として、以下の点を重視します。

《学習環境》

- 子どもたちの学びと成長を第一に、教室、校庭、体育館等の必要な規模を確保するとともに、それぞれを使いやすく関係づけ、限られた敷地を有効に活用する。
- 校庭はできる限り広く確保するとともに、運動しやすい形状とし、トラックや多目的ひろば等を一体的・柔軟に利用できるなど、体育授業や部活動、学校行事等に十分対応できる屋外空間とする。

《学校生活》

- 日常の学校生活における移動負担をできるだけ少なくし、昇降口、教室、特別教室、体育館、校庭等について移動しやすい配置・動線とする。
- 多目的に利用できる空間や交流・居場所となる空間、部活動等に利用する施設を相互に利用しやすく配置するとともに、駒込中学校の歴史や伝統を感じられる学校とする。
- 正門から校舎・昇降口までのアプローチは、桜や緑、学校の歴史を感じられる、駒込中学校の「顔」となる象徴的な空間となるよう配慮する。

《自然環境》

- 桜をはじめとする既存樹木を可能な範囲で生かすとともに、新たな植樹や緑の創出にも配慮し、駒込中学校らしい自然環境を未来へつなぐ配置とする。
- 桜や緑を、子どもたちの学びや学校生活に活用するとともに、周辺の街並みへの配慮や住環境の向上にもつながるよう配置する。

《安全・安心》

- 校内外に目が行き届き、安全な登下校や学校生活を確保できる配置・動線とする。
- 災害時の避難所（救援センター）としての利用を踏まえ、体育館や校庭、備蓄倉庫等を利用しやすく配置するとともに、緊急車両や救援物資が安全かつ円滑に出入りできる動線を確保する。

《地域との連携》

- 地域利用する施設については、学校利用との動線や管理区分に配慮し、学校運営や子どもたちの安全を確保しながら、地域からも利用しやすい配置とする。
- 近隣への視線、騒音、圧迫感等に十分配慮し、建物の位置や諸室の配置、植栽等を工夫することで、周辺の住環境と調和した配置とする。

《ユニバーサルデザイン》

- 子どもたちをはじめ、学校や地域利用施設を利用する誰もが安全で分かりやすく移動できるよう、段差の解消やエレベーターの設置等に配慮した配置・動線とする。

《コスト・工期》

- 建設費や工期に加え、将来の維持管理や運営にかかる負担も踏まえ、長期的な視点から合理的で持続可能な配置とする。